

スポーツ & カルチカー

がんばる小・中学生!!

小学生

■平成27年度交通安全ファミリー作文コンクール
優秀作〔内閣府特命担当大臣賞〕小学生の部
田中 琉結（大形小1年）、高山 悠太（下妻小3年）



スタート地点で下妻をアピールする下妻市民ランナーたち

災害時の相互応援協定を結ぶ縁で平成24年度からスポーツの市民交流が始まった浦安市と下妻市。今年で4回目の招待を受けた「第25回東京ベイ浦安シティマラソン」に下妻市民ランナー42人が参加しました。

今大会では、昨年も行われた10キロの部と3キロの部に加えて、東日本大震災による液状化被害から中断されていたハーフマラソンの部が5年ぶりに復活。全国から6,415人のランナーがエントリーし、快晴のマラソン日和のもと復興が進む新浦安地区の街並みを駆け抜けました。

初参加で10キロを走った市内坂本新田の井関利江さんは「練習時に膝を痛めてしまい心配していたが、今日は気持ちよく走れた。完走できたのでうれしく、また来年も参加したい」と笑顔でした。

復興の進む街並みを駆け抜ける
第25回東京ベイ浦安シティマラソンで市民交流
2月7日

有料広告欄

毎年恒例の「公民館まつり」が千代川公民館で開催され、延べ1,000人が訪れました。公民館や市民センターの各教室、生涯学習自主活動団体の成果を発表する場として、展示や発表を見るだけでなく、体験ものもあり、子どもから大人まで一緒に楽しんでいました。カルトナージュ教室でカードケース作りを体験した60代女性は「以前からやってみたかった。楽しくてはまりそう」とチャレンジ精神から学ぶ喜びを話していました。



カルトナージュ教室でカードケース作りに熱中する参加者たち

生涯学習の成果発表
第16回公民館まつり
2月20日・21日

下妻地区交通安全母の会連合会が主催し、今年で42回を迎える「交通安全よい子の表彰式」が、千代川公民館で開催されました。登下校などで交通安全活動を実践し、他の児童・生徒の模範となってきた下妻市と八千代町の小中学生38人が表彰されました。宗道小学校6年の堀本敦也さんからは「学校まで遠いので1年生のペースに合わせて安全に登校できるようにしてきた。もうすぐ卒業なので5年生に伝えていきたい」と話が聞けました。



受賞者に賞状が手渡されました

交通安全活動の実践
平成27年度交通安全よい子の表彰式
2月12日

有料広告欄



元気にスタートするスポーツ少年団の選手たち

新春の砂沼湖畔を駆け抜ける「第28回駅伝・マラソン競争大会」が観桜苑をメイン会場に開催され、市内スポーツ少年団から18団体343人が参加しました。

同大会は、普段は各種目で単位団ごとに活動している団員が一堂に会し、駅伝やマラソン競走を通じて交流を深めることを目的に毎年開催されています。

駅伝は1区間約2.5キロの砂沼遊歩道コースを6人でたすきをつなぎ、マラソン競走は学年別に1.5キロ、2.6キロそれぞれを走りました。

駅伝・女子の部で優勝した下妻ミニバスケットボールAチームの松本寿梨さん（上妻小6年）は「絶対負けたくないと思い、区間賞を狙って走った。今回も優勝できてほっとしている」と4連覇をチームメイトと喜んでいました。

走り競って交流深める
第28回駅伝・マラソン競走大会
2月11日



開展椅子を見入る来場者

平成27年9月関東・東北豪雨の被害で臨時休館となっている「ふるさと博物館」が3月1日から、市立図書館で移動展示の企画展「学校のたからもの～学び舎の思い出～」を開催しています。学校の歩みを紹介する写真パネルや教科書をはじめ、昔の民具なども展示され、8月31日まで市内小学校3～4校ずつを定期的に入れ替えていく予定になっています。博物館再開に向けて準備を進める横堀館長は「移動展示で下妻の歴史を紹介するだけでなく、博物館再開に向けた活動をアピールしていきたい」と意欲を見せていました。

博物館再開に向け、移動展示の企画展
ふるさと博物館「市立図書館移動展示」
3月1日～8月31日

【展示予定】
3/1～4/30 下妻小、上妻小、総上小
5/1～6/30 大宝小、騰波ノ江小、豊加美小、高道祖小
7/1～8/31 蚕飼小、宗道小、大形小



子どもたちの学び場復活に向けて
「水辺の楽校」水書被害復旧作業
2月6日

鬼怒川の大形橋右岸に整備された「水辺の楽校」の原っぱ広場は、ポンプでくみ上げた鬼怒川の水が流れる水路や池などからなり、子どもたちが水に親しみながら自然体験のできる学びの場として活用されてきましたが、平成27年9月関東・東北豪雨で河川敷が冠水し、大量の土砂が溜まったままになっていました。このため、子どもたちの学びの場を復活させようと地域住民が中心となって復旧作業を呼び掛けました。

鬼怒フラワーラインを管理する花と一万人の会や大形小学校の児童、PTA、青龍楽校少年団のメンバー、国土交通省関東地方整備局下館河川事務所鎌庭出張所などから74人が集まり、スコップやバケツを使って手作業で土砂を取り除いたり、水害で運ばれてきたさまざまなゴミを集めたりしました。

大形小学校5年の松田菜那さんは「スコップで砂を運ぶのは重くて大変だった。水辺の楽校を復活させて、昔みたいな野外教室を早くしたい」と汗をぬぐっていました。



土砂をスコップやバケツで取り除く参加者